

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		ハックススペースこっしー				公表日	2025年3月31日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		その日の人数や、メンバーにより部屋を分け、個々が落ち着いて過ごせる様にしている。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		○	3人担当が主なので、担当が見やすいメンバーで組む様にしているが、目が届かない部分がある。全体での声掛けでフォローをしながら支援をしている。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		玄関の段差以外はバリアフリーとなっていて足腰の弱い利用児も過ごしやすい。	成長に合わせた支援のために、再構造化を行ってきたい。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・利用者が片付けやすい様に写真で片付け場所を示す。 ・終日は子ども達と掃除を行う。 ・毎日、利用者来所前、来所後の掃除を行っている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		相談室、作業室を使用しているときに、更に個別の部屋が必要となった場合には、事務所も活用してこどもが落ち着ける環境を提供している。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		全体の朝礼、事業所内でのフィードバック、保護者とのやり取り等で業務改善に努めている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・保護者アンケートを毎年1回実施し、回答を基に事業所で話し合い業務改善に繋げている。 ・おやこっしーの際に保護者から意見を聞いている。 ・モニタリング面談の際に意見を聞く時間を設けている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		事業所内でのミーティングや、全体での会議（ユニット会議）、職員会議を行っている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	実施指導による指導をもとに改善へ繋げる		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		月1資質向上研修を行っている。	より多くの保護者が参加できるよう研修の魅力を伝えていきたい。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		年間計画を基に2か月前にプログラムを作成し、保護者へ公表している。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		ケア会議で意見交換を行い、アセスメントをとりながら、計画を作成している。		

13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		それぞれが感じるこどもの強みを出し合い、チーム全体で検討する機会を設けている。	
14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		事業所内全体で計画を考えるようにしている。また、オンライン上で個別支援計画が閲覧・共有ができるようにし、必要に応じて職員間で情報交換を行っている。	
15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		・Vineland-IIを用いて適応行動の評価を行っている。 ・本児の行動観察を行う。また、必要に応じて、学校や家庭への聞き取りを行い連携をとる。	
16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		ガイドラインの「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい等も踏まえて立てている。	
17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		・ユニット会議を開き、3事業所で立案、話し合いの機会がある。 ・スタッフ内で、プログラムの内容を伝えたり、アイデアをもらい協力して取り組んでいる。	
18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		スタッフ内で新しいプログラムを考え取り組む様にして	
19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		利用者の来所時の状況のみで、集団活動が難しい場合は個別活動に参加できるよう支援を行い、個別活動が難しい場合は集団活動に参加できるよう支援を行い、利用者自身でその日の活動を決められるよう意識して支援を行っている。	
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		朝礼後に打ち合わせを行い、その日の支援について話す時間を設けている。	
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		その日気になった場面がある時は、気付いた点等をスタッフ内で共有する。	
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		支援計画とプロンプトや内容がリンクする形のケース記録を作成し、支援の検証・改善がしやすくしている。	
23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		スタッフ同士で支援準備をする時に、スタッフ同士で計画について話をしたり、必要に応じて保護者支援を行い計画を見直す。	
24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		毎年4月に資質向上研修にて総則の確認を行い、ガイドラインに則って支援を行っている。	
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		プログラムの内容や進行の仕方など、一部利用者に決めてもらう場面を多く設けている	
26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		可能な限り児発管と担当スタッフが参加している。やむを得ず参加できない場合は代理の者が担当と綿密に打ち合わせたうえで参加している	

関係機関や保護者との連携	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		地域の協力医療機関を設けている。		
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		学校の年間行事や、保護者からの情報提供での関係機関と連携をとる。また、送迎などで、トラブルが起こった際は、すぐに代表に伝え適切に行う。	さらに情報共有を行い、信頼関係を築く事でより良い支援体制を構築したい。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。		○			対象となる利用者はいない。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○			卒業する高校生の人たちは、引き継ぎシートを作成してデイでの様子を記入し渡す。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○			児童発達支援センターが開催する研修に参加している。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		○			現在交流はないが、機会があれば交流の場を設けていきたい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		○			会議への参加要望があれば積極的に参加する。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			その日あったことはお便り帳にてこまめな報告と重要事項は送迎時に直接お伝えしている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○			定期的に保護者が疾患やその特性、対応について学べる勉強会を開催している。	
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			モニタリング面談時などで都度説明を実施している。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			面談時に保護者や本人を交えて自らの意向を反映できるように体制をとっている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○			面談時に内容を説明し、同意を得ている	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			面談時だけでなく、保護者やその周辺機関から困りごとが聞かれた際は、家族支援という形をとって必要な助言と支援を実施している。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	○			保護者会としての開催はないが、保護者に向けた支援や疾患特性などの勉強会を開催しており、その場が保護者同士の交流の場として機能している。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			苦情があった場合はすぐに代表へ報告し、その後の周知と改善策の立案、実行を都度行っている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○			毎月の利用希望表に活動内容やプログラムを記載し事前に発信している。 不定期ではあるがFacebookにて情報を発信している。	進路先や就労先に足を運び、環境や雰囲気などをSNS等を利用して保護者に発信していきたい。

	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		書類の名前を伏字にする、USBを持ち歩かない等書類の取り扱いに十分注意した。またこどもとの会話の中でも、個人情報になりうる情報は発言しないようにした。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		言葉遣いや言葉選びを慎重に行い、相手が不信感を抱くような言動は避けるようにした。文章でつたえるのではなく、なるべく直接伝えられるようにした。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		手芸や制作の活動の中で販売できるもの、就労につながるものを意識して取り組んでいる	こどもたちで作ったものを紹介したり、作ったものを実際に販売する機会を設け地域住民との交流を図りたい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> ・年1回の改訂を行い、職員に周知している。 ・災害時の長期避難に備え、常用する薬の服薬介助申請書提出と常用薬の携帯を依頼している。常用薬は毎年確認を行い、服薬介助申請書と携帯依頼している常用薬の更新を行っている。 ・こども未来局から感染症等の情報が来た場合には、保護者にも周知している。 	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		定期的に避難訓練を行い、災害を想定したこどもたちの動きやスタッフの役割、保護者への連絡方法など訓練することが出来た。今後はAEDの使用方法も学び、万が一の時に備えたい。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		保護者にフェイスシートやアセスメントシートで、持病について知らせてもらう。また、薬を服用している子も記入する。内服しているお薬を、記入する用紙を渡し確認をする。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		契約時にアレルギーに関する情報を聞き取りしている。変更時はすぐに情報を更新し共有している	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		運転研修やAED研修を行っている 安全管理のため、設備チェックを月に1度実施している	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		マニュアルを基に地震・火災・不審者等の避難訓練に取り組む。また、大規模避難訓練では、保護者も巻き込み取り組む。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		該当する事例があった場合はその日のうちにヒヤリハット報告書を作成し、朝礼などで情報を共有している	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切に対応をしているか。	○		虐待防止の研修を事業所内で行い、普段の支援についても話し合う等取り組む。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		身体拘束のマニュアルに則り支援を行う。また、身体拘束の研修を行ったり、スタッフ同士で身体拘束にならないかを話し合う。	